

〔徳島農研報 No.3〕
〔21～24 2006〕

シンテッポウユリ新品種‘阿波の白雪’の育成

高木和彦・前田浩典*・新居宏延・前田典子**

A new *Lilium* × *formolonga* variety ‘Awanoshirayuki’

Kazuhiko TAKAGI, Hirofumi MAEDA, Hironobu NII and Noriko MAEDA

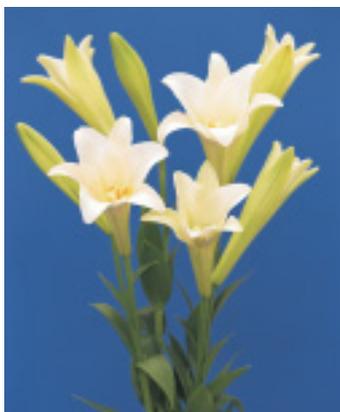
要

約

高木和彦・前田浩典・新居宏延・前田典子（2006）：シンテッポウユリ新品種‘阿波の白雪’の育成，徳島農研報（3）：21～24.

西南暖地栽培向きのシンテッポウユリ新品種‘阿波の白雪’を‘新雪’からの集団選抜法によって育成した。本品種は，生育や開花揃いが良く，2～5輪の蕾をやや上向きに着生する。4月上旬に定植すると開花盛期は7月下旬になる。

キーワード：シンテッポウユリ，新品種，上向き



第1図 ‘阿波の白雪’の草姿



第2図 ‘阿波の白雪’の開花状況
(2000年7月)

はじめに

シンテッポウユリは，長野県の西村進氏が台湾原産の実生で短期間に開花するタカサゴユリと青軸の早生テッポウユリを交配し，1938年に作出したユリである²⁾。このユリは，テッポウユリの切り花生産の端境期である7～9月に出荷され，夏期には欠かすことのできない花であり，これまでに，多数の品種が育成されている¹⁾。

しかし，これらの品種は生育開花が不揃いであることや花がやや下向きに咲くこと，露地栽培が中心のため，

西南暖地では梅雨時期に葉枯病防除に労力を要するなどの問題点があった。

そこで，当研究所では1988年から生育や開花揃いが良く，葉枯病に強く，3～4個の花が上向きに咲く等の良好な特性と市場性を備える西南暖地向き品種の育成を開始し，目標にかなった系統を選抜育成したので‘阿波の白雪’と命名し，種苗登録申請を行った。2004年1月13日に種苗法による登録が第11649号として完了したので，育成経過と特性を報告する。

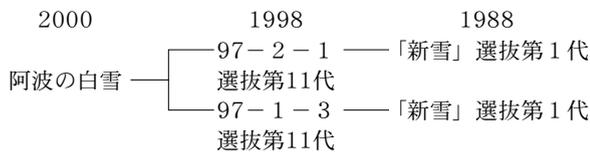
育成経過

(1) 来歴

1988年から‘新雪’を栽培し、集団選抜法によって3～4個の花が上向きに咲く個体の育成を行った。1994年に育成後代が‘あさま’‘津山’‘ホワイトランサー’と比較して葉枯病に強いことを確認し、特に花が上向きに咲く数個体を選抜し交配を行った。1995年から循環選択法によって組合せ能力の検定を行い、1998年に優秀な1組合せ(子房親97-2-1, 花粉親97-1-3)を選抜した。

1999, 2000年にこの選抜系統の特性調査を行い、目的とする特性と良好な品質を備えることを確認し、育成を終了した。

(2) 育成系統図



第3図 育成系統図

品種特性

‘阿波の白雪’の品種特性概要を第1表に、対照品種を

加えた形態的特徴を第2表に、生態的特徴を第3表に示した。なお、1999年度栽培の播種日は1998年12月16日、定植日は1999年4月12日、2000年度栽培の播種日は1999年12月20日、定植日は2000年4月11日である。

1 形態的特徴

1) 植物体

切り花の長さは約110cm, 重量は200g前後, 茎の直径は約10mmで, ‘雷山1号’‘雷山2号’‘さやか’等と比較するとボリューム感で劣る。しかし, 切り花の長さは県内産地の秀品規格である90cmを超えており品質的に問題はない。また, 親品種の‘新雪’と形態が類似し, 花がやや下向きの‘新雪セレクト’と比較すると, 切り花の長さ, 重量は劣るが, 花の向きは明らかに上向きを示している。

2) 花

花の数は2～5輪の株が多い。花の上向き程度はやや小さく, 斜め上向きに咲く。また, 小花数が多くなるにともない第1小花の着生角度は大きくなり, 花の向きは水平に近くなる。

内花被の長さは対照品種とほぼ同じであるが, 幅はやや細い。

また, 小花数が多くなるにともない花が小さくなる傾向

第1表 ‘阿波の白雪’の植物体の特性(品種登録願のゆりの特性表に従った)

形質	形質にかかる特性	形質	形質にかかる特性
花		花梗の太さ	中
花の大きさ	中輪	花梗の色	緑
花の全体の形	テップウユリ型	花梗への葉の着生	有
花の向き	15～29°	第一花梗の向き	15～29°
花径	120～149mm	一花茎の花数	やや小
花房の形状	散形花序	花の香り	中
花色(花弁基部)	濃黄緑(JHSカラーチャート3106)	花の開花始期	早
花色(花弁地色)	黄白(同2502)	つぼみ	
花色(中肋部)	浅黄緑(同3304)	つぼみの形	IX型
花色(縁部)	黄白(同2502)	植物体	
花色(裏面)	黄白(同2502)	草丈	100～129cm
花被のねじれ	1/8未満	茎の直径	10.0～14.9mm
花被上の乳状突起	無	茎の色	緑
内花被の幅	60～79mm	毛じ	無
内花被の長さ	18～23cm	節間長(茎の中央部)	20～39mm
内花被の形	I型	(止葉下)	60～79mm
内花被先端の形状	III型	葉	
内花被の反転の程度	VIII型	葉序	2/5
内花被1枚の斑点の数	0	葉全体の形	披針形
外花被の幅	40～49mm	葉身中央部の反り	やや外反転
外花被の長さ	16～23cm	葉先端部の反り	やや外反転
外花被の形	IV型	葉のねじれ	無
外花被先端の形状	V型	葉幅	20～29mm
外花被の反転の程度	V型	葉長	12～15cm
外花被1枚の斑点の数	0	葉の光沢	有
花糸の色	白	葉の数	中
花粉の色	黄	葉の着生角度	30～59°
第一花梗の長さ	120～149mm	早晩生	早生

シンテッポウユリ新品種 ‘阿波の白雪’ の育成

がある。

3) 葉

葉の長さは対照品種とほぼ同じ、幅はやや細く、全体の形は披針形である。

2 生態的特徴

1) 発芽

播種後最低気温を 15℃ 以上に保つと約 2 週間後から 1 ヶ月の間にほぼ 100% 発芽する。

2) 開花

4 月上旬に定植すると、7 月中旬から開花が始まる。早生品種とされる ‘雷山 1 号’ より開花盛期は約 1 週間

ほど早く、収穫期幅は短い。2 番花が採花できる株がある。

3) 病害

葉枯病耐病性は ‘雷山 2 号’ や ‘さやか’ より強いと考えられる。

適作性

‘阿波の白雪’ の播種・定植時期と生育開花および切り花品質を 第 4 表に示した。

徳島県の平坦部において、12 月下旬播種、4 月上旬定植で 7 月上旬からの出荷になる。また、1 月中旬播種、4 月下旬定植で 7 月下旬からの出荷になる。採花株率や切り花の長さは 4 月下旬定植で最も良好である。これは、定植が 5 月以降になると苗の老化が始まり早期抽だいによる未着蕾の株が発生すること、また定植後の高温や土壌の乾燥等のストレスによりロゼット株や早期に花芽分化し草丈が確保できない株が発生することが原因である。

第 2 表 形態的特徴

栽培年 品種名	切り花		莖径 (cm)	花		中位葉		内花被	
	長さ (cm)	重量 (g)		数 (個)	向き (°)	長さ (cm)	幅 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)
1999年									
阿波の白雪	108	178	0.92	2.6	37.4	13.6	2.8	17.6	5.5
雷山 2 号	135	312	1.06	4.4	40.2	14.3	3.1	17.0	6.4
さやか	162	360	1.14	4.0	45.9	14.3	3.1	17.6	6.7
2000年									
阿波の白雪	110	206	1.10	4.1	63.2	13.4	2.7	15.5	5.2
雷山 1 号	120	270	1.08	5.0	48.6	13.6	3.4	15.9	6.3
さやか	140	314	1.12	4.7	60.0	13.1	3.4	16.8	6.6
新雪セレクト	140	250	1.06	4.1	97.6	14.0	3.0	17.0	5.9

注) 莖径：茎上部より 1/3 の位置で長径を測定、花の向き：第 1 小花の垂直に対しての角度

第 3 表 生態的特徴

栽培年 品種名	発芽率 (%)	採花率 (%)	第 1 小花開花日		病害 程度 (cm)
			平均 (始～終) (月/日)		
1999年					
阿波の白雪	77.5	125	7/30(7/15～8/21)		6.8
雷山 2 号	63.5	108	8/09(7/18～8/22)		13.6
さやか	61.2	92	8/12(8/05～8/19)		16.0
2000年					
阿波の白雪	99.0	95	7/22(7/15～7/27)		—
雷山 1 号	83.4	100	7/28(7/16～8/05)		—
さやか	59.2	90	8/07(7/31～8/19)		—
新雪セレクト	52.0	98	8/05(7/23～8/18)		—

注) 発芽率：1999 年播種 2 週間後、2000 年播種 1 ヶ月後調査
病害程度：収穫時の株元から葉枯病斑のある本葉までの高さ

名前の由来

シンテッポウユリの清楚な白い花は、雪を連想させる。南国の徳島県では雪の降ることは珍しく、雪に対してあこがれを持つ県民も多い。そこで、雪のように人々に愛されるような花になってほしいとの想いを込め、「阿波の白雪」とした。

摘 要

西南暖地において、栽培が容易で市場性の高い品種を育成するため、‘新雪’を素材として、集団選抜法と循環選抜法による育種を 1988 年から開始した。

1 生育や開花揃いが良く、葉枯病に対しては ‘雷山 2 号’ や ‘さやか’ より強く、2～5 個の花がやや上向きに咲く品種を育成し、2004 年に ‘阿波の白雪’ と命名した。

第 4 表 ‘阿波の白雪’ の播種・定植時期と生育開花および切り花品質

播種日 (年/月/日)	定植日 (年/月/日)	採花 株率 (%)	第 1 小花開花日 平均 (始～終) (月/日)	切り花		蕾		ロゼット 株率 (%)
				長さ (cm)	重さ (g)	数 (個)	向き (°)	
2001/12/26	2002/ 4 / 8	87.5	7 / 19 (7 / 12 ~ 7 / 25)	93	146	3.2	49.1	0.0
	4 / 24	100.0	7 / 26 (7 / 15 ~ 8 / 7)	103	180	3.8	59.2	0.0
	5 / 14	80.0	8 / 25 (8 / 9 ~ 9 / 18)	97	208	4.2	73.2	15.3
	6 / 4	30.0	9 / 5 (8 / 24 ~ 9 / 18)	89	180	4.7	70.9	52.8
2002/ 1/21	2003/ 4 / 8	92.5	7 / 27 (7 / 11 ~ 9 / 1)	98	181	3.8	55.4	0.0
	4 / 24	100.0	8 / 4 (7 / 25 ~ 8 / 29)	106	199	3.9	46.2	0.0
	6 / 4	40.0	9 / 7 (8 / 24 ~ 9 / 19)	84	139	3.1	54.4	42.1

- 2 適する作型は、1月下旬に播種し、4月下旬に定植する作型である。この作型の収穫最盛期は8月上旬で、長さ、重さ、花蕾数等の品質で最も市場性の高い切り花が得られる。5月以降の定植は、採花株率が低下するため適さない。

引用文献

- 1) 清水基夫編著(1987)：日本のユリ原種とその園芸種，誠文堂新光社（東京）：157-159.
- 2) 渡辺寛之（1988）：シンテツポウユリ，栽培の基礎，林 角郎監修，切り花栽培の新技术，球根，誠文堂新光社（東京）：84-85.